

年 頭 所 感

新春におもう



大阪府市長会会長 中司 宏

明けましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて昨年は、尼崎市の列車脱線転覆事故をはじめ、アスベストによる健康被害問題、子どもたちを巡る痛ましい事件、さらにはマンションなどの耐震構造の偽装など、「市民の安心・安全」が脅かされる事件、事故が相次いで起こり、改めて危機管理の重要性を痛感させられました。

しかし、暗いニュースの半面、環境をテーマにした「愛・地球博」の成功、清子内親王のご結婚など、明るいニュースもたくさんあり、昨年の「世相を象徴する漢字」に、『愛』が選ばれたことは、愛を失ってはならないという多くの人たちの熱い思いが込められたものと思います。

自治体においても、この「愛」を大切に、ハートのこもった温もりのあるまちづくりに努めなければなりません。

国の三位一体の改革により地方分権が進展していますが、権限に見合うだけの地方への財源移譲はまだ不十分と言わざるを得ません。一昨年11月の政府・与党合意及び「基本方針2005」で、国と地方との信頼関係は一定保たれたものの、地方交付税は平成18年度までに総額5兆円が削減されることとなり、地方にとっては依然厳しい財政運営を強いられることが予想されます。

そうした中で、引き続き、地方6団体が結束して安定的な財政運営のために必要な財源の確保を国に強く訴えていかなければなりません。

その一方で、自治体としても、行財政の構造改革を強力に推進して、政策形成能力や経営能力を高めながら、限られた財源でより効率的、効果的なサービスを提供できるよう努めていきます。そして、情報公開で十分な説明責任を果たしながら、市民の皆さんと協働で分権時代にふさわしい魅力あるまちを築いていきたいと思っています。

結びに、本年が皆様方にとってより良き年となり、真の地方分権確立のため一層のご活躍をいただきますように心からお願い申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。